

40 消防発足
周年記念

消防40年の歩み



南魚沼市消防大和分署に降り立つ新潟県防災ヘリコプター（はくちょう）



南 魚 沼 市
南魚沼市消防本部

常備消防40周年を迎えて

このたび、南魚沼市消防本部は、昭和45年1月常備消防発足以来40周年を迎えることとなりました。発足当時は1本部1署25人体制でスタートした組織も、現在は1本部2署1分署105人体制の組織となりました。また、平成18年度に広域連合の解散に伴い、現在の組織体制となり、湯沢町から業務委託を受け1市1町の消防業務に当たっております。

この40年を振り返りますと、昭和40年代の高度経済成長に伴い私どもを取り巻く環境も大きく様変わりをし、生活水準の向上と生活環境の都市化が進み、大きな変化をもたらしました。昭和50年代後半になると、上越新幹線、関越自動車道が開通し高速交通体系が整備され、交通の利便性とスキー観光を中心に、首都圏から多くのお客様からお越しいただく観光地へと発展をしました。平成に入り、リゾートブームは去りましたが、四季を通した豊かな自然、温泉や史跡などの観光資源を活かし、真の観光地へと飛躍を続けております。



近年、中越大震災や中越沖地震など大規模な自然災害が発生し、消防に寄せる期待や信頼がさらに大きな高まりを見せ、消防の役割はますます重要なものとなっております。常備消防発足40周年を迎え、消防がこれまで培ってきた成果と教訓を基に、今後とも住民の安心・安全の新たなニーズに応えられるよう、消防団を含めた消防関係機関が一丸となって最善の努力を続けてまいります。

今日まで限りなく深いご理解とご支援を賜りました地域住民の皆様方に心から感謝を申し上げます、この地が明るく豊かで住みよい南魚沼地域となりますよう、今後もしばしばご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。

平成22年9月9日 南魚沼市長 井口 一郎

目次

| | |
|----------------------|----|
| 管内の消防力 | 1 |
| 南魚沼市消防機構 | 2 |
| 消防庁舎の現況 | 3 |
| 歴代管理者・消防長・消防署長 | 4 |
| 歴代消防団長 | 5 |
| 40年のあゆみ | 6 |
| あとがき | 24 |

管内の消防力

平成22年5月末

南魚沼市

| | |
|----------|-----------------------|
| 面積 | 584.82km ² |
| 世帯数 | 19,068戸 |
| 人口 | 61,217人 |
| 防火水槽(公設) | 487ヶ所 |
| 消火栓(公設) | 2,520基 |



湯沢町

| | |
|----------|----------------------|
| 面積 | 357.0km ² |
| 世帯数 | 3,276戸 |
| 人口 | 8,313人 |
| 防火水槽(公設) | 77ヶ所 |
| 消火栓(公設) | 397基 |



南魚沼市消防本部・署(2署1分署)

| | |
|----------|----|
| 消防ポンプ自動車 | 4台 |
| はしご自動車 | 2台 |
| 化学消防車 | 1台 |
| 救助工作車 | 1台 |
| 救急車 | 6台 |
| 水槽車 | 1台 |

| | |
|--------|------|
| 資機材輸送車 | 4台 |
| 指揮車 | 2台 |
| 指令車 | 2台 |
| 査察車 | 3台 |
| 消防職員 | 105人 |

塩沢方面隊

| | |
|--------------|------|
| 消防ポンプ自動車 | 4台 |
| 小型動力ポンプ付積載車 | 9台 |
| 小型動力ポンプ付軽積載車 | 14台 |
| 小型動力ポンプ | 37台 |
| 消防団員 | 835人 |

六日町方面隊

| | |
|--------------|------|
| 消防ポンプ自動車 | 4台 |
| 小型動力ポンプ付積載車 | 12台 |
| 小型動力ポンプ付軽積載車 | 12台 |
| 小型動力ポンプ | 43台 |
| 消防団員 | 912人 |

大和方面隊

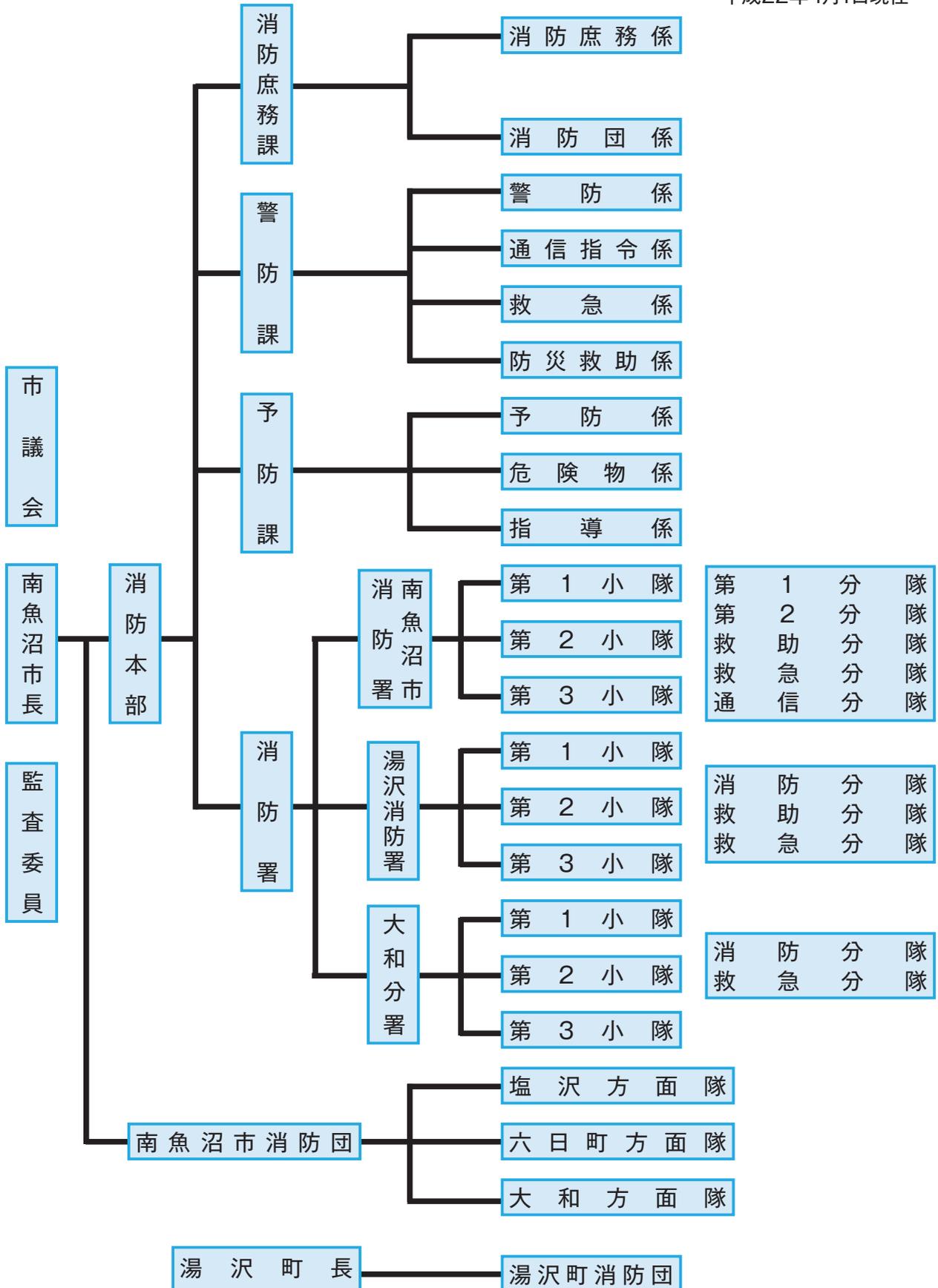
| | |
|--------------|------|
| 消防ポンプ自動車 | 3台 |
| 小型動力ポンプ付積載車 | 7台 |
| 小型動力ポンプ付軽積載車 | 13台 |
| 小型動力ポンプ | 29台 |
| 消防団員 | 660人 |

湯沢町消防団

| | |
|--------------|------|
| 消防ポンプ自動車 | 4台 |
| 小型動力ポンプ付積載車 | 9台 |
| 小型動力ポンプ付軽積載車 | 6台 |
| 小型動力ポンプ | 13台 |
| 消防団員 | 379人 |

南魚沼市消防機構

平成22年4月1日現在



消防庁舎の現況

| 区分 名称 | 所在地 | 構造 | 設置年月 | 面積 m ² | | |
|-------------|------------------------|---------------------------|----------|-------------------|--------|----------|
| | | | | 敷地 | 建築 | 延 |
| 消防本部 消防署 | 南魚沼市 竹俣82番地2 | 鉄骨構造一部 鉄筋コンクリート 3階建 | 昭和44年12月 | 3,420.70 | 723.25 | 2,162.01 |
| 消防車庫 | 南魚沼市 竹俣新田6番地1 | 鉄骨構造2階建 | 平成7年12月 | 1,504.00 | 251.20 | 459.79 |
| 大和分署 | 南魚沼市 茗荷沢1033番地1 | 鉄骨構造2階建 | 平成6年12月 | 5,221.00 | 822.11 | 1,255.69 |
| 湯沢 消防署 | 南魚沼郡湯沢町 大字神立2586番地1 | 鉄骨構造3階建 | 平成4年1月 | 3,425.00 | 584.00 | 1,559.78 |



▲ 消防本部消防署



▲ 湯沢署



▲ 大和分署

歴代管理者・消防長・消防署長

●歴代管理者・広域連合長・市長

| 代 | 区分 | 氏名 | 就任年月日 | 退任年月日 | 在任年月 |
|---------|----|-------|-------------|-------------|-------|
| 初代 | 代 | 桜井三代松 | 昭和44年4月1日 | 昭和46年5月17日 | 2年2月 |
| 二代 | 代 | 南雲順一 | 昭和46年5月18日 | 昭和49年7月31日 | 4年3月 |
| 三代 | 代 | 我田大作 | 昭和49年8月1日 | 昭和51年5月31日 | 1年10月 |
| 四代 | 代 | 南雲順一 | 昭和51年6月1日 | 昭和54年4月30日 | 2年11月 |
| 五代 | 代 | 我田大作 | 昭和54年5月1日 | 昭和59年5月31日 | 5年1月 |
| 六代 | 代 | 大谷欣一 | 昭和59年6月1日 | 昭和62年3月31日 | 2年10月 |
| 七代 | 代 | 小野澤一吉 | 昭和62年4月1日 | 平成6年7月24日 | 7年4月 |
| 八代 | 代 | 小宮山孝義 | 平成6年7月25日 | 平成13年3月18日 | 6年8月 |
| 広域連合長初代 | | 小宮山孝義 | 平成13年3月19日 | 平成15年4月25日 | 2年1月 |
| 二代 | 代 | 上田欽一 | 平成15年4月26日 | 平成15年8月19日 | 4月 |
| 三代 | 代 | 井口一郎 | 平成15年8月20日 | 平成16年10月31日 | 1年2月 |
| 四代 | 代 | 高野武彦 | 平成16年11月1日 | 平成16年11月28日 | 1月 |
| 五代 | 代 | 井口一郎 | 平成16年11月29日 | 平成18年3月31日 | 1年4月 |
| 市長初代 | | 井口一郎 | 平成18年4月1日 | - | |

●歴代消防長

| 代 | 区分 | 氏名 | 就任年月日 | 退任年月日 | 在任年月 |
|-----|----|-------|-----------|------------|-------|
| 初代 | 代 | 貝瀬信雄 | 昭和44年4月1日 | 昭和53年2月29日 | 8年11月 |
| 二代 | 代 | 山田健二 | 昭和53年3月1日 | 昭和55年5月31日 | 2年3月 |
| 三代 | 代 | 小林正吾 | 昭和55年6月1日 | 昭和57年3月31日 | 1年10月 |
| 四代 | 代 | 小林利雄 | 昭和57年4月1日 | 昭和61年8月31日 | 4年5月 |
| 五代 | 代 | 南雲虎良 | 昭和61年9月1日 | 昭和62年3月31日 | 7月 |
| 六代 | 代 | 常山吉之助 | 昭和62年4月1日 | 平成2年3月31日 | 3年 |
| 七代 | 代 | 安部高綱 | 平成2年4月1日 | 平成4年3月31日 | 2年 |
| 八代 | 代 | 山口清治 | 平成4年4月1日 | 平成9年3月31日 | 5年 |
| 九代 | 代 | 種村充夫 | 平成9年4月1日 | 平成12年3月31日 | 3年 |
| 十代 | 代 | 飯酒益東一 | 平成12年4月1日 | 平成15年3月31日 | 3年 |
| 十一代 | 代 | 阿部重夫 | 平成15年4月1日 | 平成17年3月31日 | 2年 |
| 十二代 | 代 | 桐生一夫 | 平成17年4月1日 | 平成20年3月31日 | 3年 |
| 十三代 | 代 | 高野洋一 | 平成20年4月1日 | - | |

●歴代消防署長（南魚沼市消防署長）

| 代 | 区分 | 氏名 | 就任年月日 | 退任年月日 | 在任年月 |
|-----|----|-------|-------------|------------|-------|
| 初代 | 代 | 桐生弘一 | 昭和44年11月17日 | 昭和55年3月31日 | 10年5月 |
| 二代 | 代 | 発地守 | 昭和55年4月1日 | 昭和58年3月31日 | 3年 |
| 三代 | 代 | 井口九十郎 | 昭和58年4月1日 | 平成2年3月31日 | 7年 |
| 四代 | 代 | 山口清治 | 平成2年4月1日 | 平成4年3月31日 | 2年 |
| 五代 | 代 | 桑原光一 | 平成4年4月1日 | 平成12年3月31日 | 8年 |
| 六代 | 代 | 平賀功一 | 平成12年4月1日 | 平成13年3月31日 | 1年 |
| 七代 | 代 | 阿部重夫 | 平成13年4月1日 | 平成15年3月31日 | 2年 |
| 八代 | 代 | 桐生一夫 | 平成15年4月1日 | 平成17年3月31日 | 2年 |
| 九代 | 代 | 岸野正嗣 | 平成17年4月1日 | 平成18年3月31日 | 1年 |
| 十代 | 代 | 高野洋一 | 平成18年4月1日 | 平成19年3月31日 | 1年 |
| 十一代 | 代 | 原澤幹夫 | 平成19年4月1日 | 平成20年3月31日 | 1年 |
| 十二代 | 代 | 西野辰夫 | 平成20年4月1日 | 平成21年3月31日 | 1年 |
| 十三代 | 代 | 田村良一 | 平成21年4月1日 | - | |

歴代消防団長

| 町別 | 代 | 区分 | 氏名 | 就任年月日 | 退任年月日 | 在任年月 |
|---------|--------|----|-----------|----------------|---------------|---------|
| 塩沢町消防団 | 初代 | | 小野 沢 革 治 | 昭和28年 1 月 1 日 | 昭和40年 1 月 5 日 | 12年 |
| | 二代 | | 林 養 三 | 昭和40年 1 月 6 日 | 昭和41年 1 月 5 日 | 1年 |
| | 三代 | | 青 木 進 | 昭和41年 1 月 6 日 | 昭和54年 3 月31日 | 13年 3 月 |
| | 四代 | | 上 村 久 嘉 | 昭和54年 4 月 1 日 | 昭和63年 3 月31日 | 9年 |
| | 五代 | | 柳 川 正 己 | 昭和63年 4 月 1 日 | 平成 7 年 3 月31日 | 7年 |
| | 六代 | | 関 定 一 | 平成 7 年 4 月 1 日 | 平成12年 3 月31日 | 5年 |
| | 七代 | | 星野 虎 一 郎 | 平成12年 4 月 1 日 | 平成16年 3 月31日 | 4年 |
| | 八代 | | 富 井 義 雄 | 平成16年 4 月 1 日 | 平成18年 3 月31日 | 2年 |
| 六日町消防団 | 初代 | | 遠 藤 恒 一 | 昭和31年 9 月 1 日 | 昭和36年 3 月31日 | 4年 7 月 |
| | 二代 | | 桐 生 弘 一 | 昭和36年 4 月 1 日 | 昭和44年11月16日 | 8年 8 月 |
| | 三代 | | 並 木 三 男 | 昭和44年11月17日 | 昭和49年 3 月31日 | 4年 5 月 |
| | 四代 | | 大 塚 文 一 | 昭和49年 4 月 1 日 | 昭和53年 3 月31日 | 4年 |
| | 五代 | | 白 井 敏 雄 | 昭和53年 4 月 1 日 | 昭和61年 3 月31日 | 8年 |
| | 六代 | | 大 平 修 平 | 昭和61年 4 月 1 日 | 平成 2 年 3 月31日 | 4年 |
| | 七代 | | 渡 邊 巖 | 平成 2 年 4 月 1 日 | 平成 8 年 3 月31日 | 6年 |
| | 八代 | | 廣 田 幸 雄 | 平成 8 年 4 月 1 日 | 平成14年 3 月31日 | 6年 |
| | 九代 | | 遠 藤 文 夫 | 平成14年 4 月 1 日 | 平成18年 3 月31日 | 4年 |
| 大和町消防団 | 初代 | | 井 上 利 忠 | 昭和22年 8 月 1 日 | 昭和33年 3 月31日 | 10年 8 月 |
| | 二代 | | 関 辰 弥 | 昭和33年 4 月 1 日 | 昭和38年 5 月31日 | 5年 2 月 |
| | 三代 | | 高 橋 義 昌 | 昭和38年 6 月 1 日 | 昭和42年 3 月31日 | 3年10月 |
| | 四代 | | 大 西 長 吉 | 昭和42年 4 月 1 日 | 昭和50年 3 月31日 | 8年 |
| | 五代 | | 目 崎 文 作 | 昭和50年 4 月 1 日 | 昭和54年 3 月31日 | 4年 |
| | 六代 | | 丸 山 留 三 郎 | 昭和54年 4 月 1 日 | 昭和62年 3 月31日 | 8年 |
| | 七代 | | 関 栄 二 | 昭和62年 4 月 1 日 | 平成 3 年 3 月31日 | 4年 |
| | 八代 | | 関 勝 雄 | 平成 3 年 4 月 1 日 | 平成11年 3 月31日 | 8年 |
| | 九代 | | 戸 田 喜 代 平 | 平成11年 4 月 1 日 | 平成13年 3 月31日 | 2年 |
| | 十代 | | 湯 本 正 | 平成13年 4 月 1 日 | 平成18年 3 月31日 | 5年 |
| 南魚沼市 | 六日町消防団 | | 遠 藤 文 夫 | 平成18年 4 月 1 日 | 平成19年 3 月31日 | 1年 |
| | 塩沢消防団 | | 富 井 義 雄 | 平成18年 4 月 1 日 | 平成19年 3 月31日 | 1年 |
| | 大和消防団 | | 湯 本 正 | 平成18年 4 月 1 日 | 平成19年 3 月31日 | 1年 |
| 南魚沼市消防団 | 初代 | | 遠 藤 文 夫 | 平成19年 4 月 1 日 | 平成21年 3 月31日 | 2年 |
| | 二代 | | 富 井 義 雄 | 平成21年 4 月 1 日 | - | |
| 湯沢町消防団 | 初代 | | 井 口 真 司 | 昭和30年 4 月 1 日 | 昭和32年 3 月31日 | 2年 |
| | 二代 | | 高 橋 益 次 郎 | 昭和32年 4 月 1 日 | 昭和36年 3 月31日 | 4年 |
| | 三代 | | 高 橋 孝 一 | 昭和36年 4 月 1 日 | 昭和40年 3 月31日 | 4年 |
| | 四代 | | 佐 藤 潤 一 | 昭和40年 4 月 1 日 | 昭和44年 3 月31日 | 4年 |
| | 五代 | | 林 仁 太 郎 | 昭和44年 4 月 1 日 | 昭和48年 3 月31日 | 4年 |
| | 六代 | | 高 橋 孔 平 | 昭和48年 4 月 1 日 | 平成元年 3 月31日 | 16年 |
| | 七代 | | 高 野 詳 | 平成元年 4 月 1 日 | 平成11年 3 月31日 | 10年 |
| | 八代 | | 長 谷 川 昭 次 | 平成11年 4 月 1 日 | 平成17年 3 月31日 | 6年 |
| | 九代 | | 関 良 和 | 平成17年 4 月 1 日 | 平成19年 3 月31日 | 2年 |
| | 十代 | | 林 敏 | 平成19年 4 月 1 日 | - | |

40年のあゆみ

常備消防40周年を迎えて

当消防は、昭和44年4月1日に六日町・塩沢町消防事務組合（魚沼消防本部）を発足し、昭和47年4月1日に湯沢町、大和町の加入により南魚沼郡一円を管轄する魚沼消防事務組合（魚沼消防本部）となりました。

その後組合行政の管理体制の強化と事務の効率化を図る必要性から、昭和51年6月1日から消防とゴミ、し尿、老人ホーム等を統合した南魚沼郡広域事務組合となりました。平成16年11月1日に六日町と大和町が合併し、南魚沼市が誕生し、平成17年10月1日には南魚沼市と塩沢町が合併し新・南魚沼市となりました。

これに伴い平成18年4月1日、魚沼消防本部から南魚沼市消防本部と改名しました。発足当時は、1本部1署25人体制でスタートした組織も現在では、1本部2署1分署、職員105名体制の組織となりました。

なお、消防団は平成19年4月1日から旧町（六日町・大和町・塩沢町）3団が南魚沼市消防団の1団体制となり、六日町方面隊、大和方面隊、塩沢方面隊に編成され現在に至っております。

● 昭和44年

- 4月 ・六日町・塩沢町消防事務組合発足、魚沼消防本部を六日町役場に置き職員4名で業務を開始
- 8月 ・塩沢町立舞子小学校火災（焼失面積1,138㎡）
 - ・六日町・五十沢・城内地区大水害発生（8.12水害、死者2名災害救助法適用）
- 12月 ・消防庁舎完成（塩沢町竹俣地内）

5月26日 東名高速道路全通

7月20日 アポロ11号月面着陸、人類初めて

● 昭和45年

- 1月 ・消防署（署長以下25名）発足業務開始（職員22名採用）
（消防自動車2台、指令車1台配置）
- 2月 ・大和町消防団、日本消防協会長より竿頭授受章
- 3月 ・A級救急車を購入し救急業務を開始
- 8月 ・民間医療機関よりB級救急車が寄贈され、救急業務が充実された。
- 12月 ・水槽付消防ポンプ自動車購入

3月31日 よど号ハイジャック事件発生

5月31日 ペルー北部大地震 死者71,000余人



▲ S45 魚沼消防本部・署

● 昭和46年

- 3月 ・塩沢町・六日町の両消防団、消防庁長官より竿頭授受章
- 7月 ・県立六日町高等学校で火災発生
- 11月 ・六日町で住宅火災がホテルに延焼し児童1名が死亡
◎消防団の機動力を強化するため、小型動力ポンプ付積載車を導入する。

6月17日 沖縄返還協定調印

7月30日 岩手県雫石町全日空機と自衛隊機接触事故 死者162名

●昭和47年

2月 ・六日町消防団、日本消防協会長より表彰旗受章

4月 ・湯沢町・大和町の加入により組合名称を、魚沼消防事務組合に改称

8月 ・第1回全国消防協会東北支部救助指導会「ロープブリッジ渡過」に新潟県代表として出場

9月 ・第1回全国消防救助技術大会「タイトロープ」
東北地区代表として出場（東京・豊島園）

10月 ・湯沢町・大和町に分署庁舎完成。職員16名採用し業務開始
（両分署に消防ポンプ自動車、救急車を配置）

2月19日 浅間山荘事件発生

5月13日 千日デパート火災（大阪市）死者118名、負傷者81名）積載車を導入する。

●昭和48年

2月 ・塩沢町で、第28回国民体育大会冬季大会開催期間中
石打分遣所を配置、関係施設の特別査察を実施

4月 ・広報車を購入し、両分署に配置

7月 ・消防審議会発足

9月 ・中部消防応援協定会議を六日町で開催火災・救助・救急訓練を実施

10月 ・スノーケル車（16m級）を購入し本署に配置

10月25日 第1次オイルショック

11月29日 大洋デパート火災（熊本市）死者100名、負傷者124名



▲ S48.9.29 中部消防応援協定会議救助訓練

●昭和49年

2月 ・消防本部・署庁舎増築、湯沢町消防団、日本消防協会長より表彰旗受章

4月 ・南魚沼郡休日救急外科在宅当番制を開始（土・日）

10月 ・新潟県総合防災訓練を六日町にて開催

11月9日 LPGタンカー第十雄洋丸火災（東京湾）死者33名、負傷者34名

12月18日 三菱石油水島製油所重油流出事故（42,888㎥）流出

●昭和50年

1月 ・塩沢町大字関でプロパンガス爆発事故死者1名、負傷者3名、全壊1戸、損壊11戸の被害発生

4月 ・消防署、隔日勤務を2交代制から3交代制に移行

8月 ・第26回新潟県消防大会ポンプ操法競技会「消防団・自動車の部」で六日町消防団チーム3位入賞

4月30日 ベトナム戦争終結

40年のあゆみ

●昭和51年

- 1月 ・危険物施設等大規模火災に備え泡放射砲を購入
- 6月 ・一部事務組合を解散し、南魚沼郡広域事務組合となる
- 8月 ・第27回新潟県消防大会ポンプ操法競技会「消防署・自動車の部」で魚沼消防署チーム2位入賞
・水槽車を化学車に改装する。

2月4日 ロッキード事件

10月29日 酒田市火災 死者1名、負傷者1,003名、焼損棟数1,774棟

●昭和52年

- 7月 ・上越新幹線湯沢トンネル北工区で火災が発生
(負傷者40名全員救出される)

全国雪害 死者101名、負傷者834名、
建物損壊 139棟

7月14日 日本初静止気象衛星
(ひまわり1号) 打上げ成功



▲ S.52.7.15 新幹線トンネル工事現場火災

●昭和53年

- 2月 ・豪雪対策本部4町に設置(豪雪による死者2名、負傷者10名)
・ドア付消防ポンプ自動車を購入し本署に配置
- 6月 ・魚沼地方集中豪雨(三国川破堤、被害総額161億円)
- 8月 ・第29回新潟県消防大会が六日町で開催、ポンプ操法競技会「消防団・自動車の部」で六日町消防団チーム2位入賞
- 10月 ・湯沢・大和分署増築
・第1次消防整備5ヶ年計画を策定
・大和町大字浦佐の百貨店でガス爆発(死者1名、負傷者1名、全壊1戸、損壊11戸)
- 11月 ・真性コレラ保菌者発生 コレラ特別警戒発令

3月10日 スナック「エル・アドロ」火災(新潟市) 死者11名
負傷者2名

5月20日 新東京国際空港開港

●昭和54年

- 2月 ・大和町消防団、日本消防協会長より表彰旗受章
- 8月 ・第30回新潟県消防大会ポンプ操法競技会「消防団・小型の部」で湯沢町消防団チーム、3位入賞
- 11月 ・湯沢町に無線サイレン吹鳴装置設置
・湯沢町でホテル火災(焼失面積377㎡、宿泊客は全員避難し死傷者なし)

- 3月20日 上越新幹線で大清水トンネル工事現場火災（水上町）死者16名、負傷者1名
7月11日 東名高速日本坂トンネル火災（静岡県）死者7名、負傷者2名、焼損車両189台

●昭和55年

- 3月 ・救急医療情報システム導入
8月 ・上級防火管理者講習会開催
11月 ・消防100年記念消防団全国大会開催

- 8月16日 静岡駅前ガス爆発火災
死者14名、負傷者223名
11月20日 川治プリンスホテル火災（栃木県）死者45名、負傷者22名



▲ 坂戸スキー場雪崩発生捜索状況

●昭和56年

- 1月 ・56豪雪、豪雪対策本部4町に設置
・消防本部庁舎増築
2月 ・坂戸スキー場で表層雪崩発生（軽傷者1名）
6月 ・広域消防10周年記念式典開催
（六日町小学校）
8月 ・8.23水害、集中豪雨により魚野川氾濫、六日町市街地を中心に大きな被害が発生（被害総額約47億円）
10月 ・防火対象物表示公表制度の施行
12月 ・消防庁C型救急指令措置を導入、稼働開始
（119番通報を一括受信、一斉指令とする）
・テレホンガイドを併設し、火災及び医療サービス等を開始



▲ S56.8.23 水害に見舞われた六日町市街地

全国豪雪 死者・行方不明者152名、負傷者2,158名、建物損壊466棟

●昭和57年

- 1月 ・休日救急診療所を六日町保健センター内に移転
3月 ・魚沼消防本部・六日町消防団消防庁長官より表彰旗受章
5月 ・南魚沼郡防火協会設立
8月 ・第33回新潟県消防大会ポンプ操法競技会「消防署・自動車の部」で魚沼消防署2位入賞
11月 ・上越新幹線開業
12月 ・六日町大字泉新田で工場火災
（焼失面積3,143㎡）

40年のあゆみ

- 2月8日 ホテルニュージャパン火災 死者33名、負傷者34名
- 6月23日 東北新幹線（大宮～盛岡）開業
- 9月12日 台風10号により信濃川洪水、長崎市大洪水
- 11月15日 上越新幹線（大宮～新潟）開業

●昭和58年

- 4月 ・第2次消防整備計画の策定
- 9月 ・消防ポンプ自動車（CD-II型）更新して本署配置
- 10月 ・関越自動車道六日町ICまで供用開始
 - ・第2次病院群輪番制を南魚沼郡、北魚沼郡、小千谷地域7病院で休日、夜間救急診療を開始
- 4月15日 東京ディズニーランド開園
- 5月26日 日本海中部地震、津波により死者104名、負傷者324名、建物損壊1,584棟

●昭和59年

- 2月 ・59豪雪、4町豪雪対策本部を設置
 - ・湯沢町湯元で雪崩が民家を直撃（2名生き埋めとなるが、無事救出）
- 3月 ・湯沢町消防団、消防庁長官より竿頭綬受章
- 4月 ・第2次病院群輪番制を365日、休日、夜間救急診療を開始
- 6月 ・救助訓練塔完成
- 9月 ・新潟県総合防災訓練を湯沢町にて開催
- 11月 ・関越自動車道湯沢ICまで供用開始
- 12月 ・湯沢町消防団、消防庁長官より特別表彰受章（雪崩災害の救助活動による）
- 5月12日 NHK衛星テレビ放送開始
- 9月14日 長野西部地震（玉滝村）死者29名、負傷者19名、建物全壊14棟

●昭和60年

- 8月 ・消防団員の服装が法被から作業服に変更
- 9月 ・湯沢町消防団、内閣総理大臣より表彰受賞（雪崩災害の救助活動に対して受賞）
 - ・関越トンネル総合防災訓練を実施（関越自動車道全線開通にあわせて）
- 10月 ・中部消防応援協定協議会を魚沼消防本部で開催
 - ・関越トンネルの完成により関越自動車道全線開通
- 12月 ・化学消防ポンプ自動車を購入し本署に配置
- 3月14日 上越新幹線（上野～大宮間）開業
- 6月1日 改正男女雇用機会均等法公布
- 8月12日 日航機墜落（群馬県上野村）死者520名



▲ 関越トンネル防災訓練総合訓練

●昭和61年

- 11月 ・六日町少年婦人防火委員会設立
- 2月11日 熱川温泉大東館火災（静岡県伊豆町）死者24名
- 4月26日 チェルノブイリ原発 事故発生
- 11月21日 三原山噴火、全島民一時離島

●昭和62年

- 3月 ・大型救助工作車を購入し本署に配置
- 7月 ・第16回全国消防協会東北地区支部消防救助技術指導会「ロープブリッジ救出」に新潟県代表として出場（仙台市）
- 8月 ・日本消防協会長 笹川良一氏特別講演（湯沢町公民館）
- 11月 ・水槽付消防ポンプ自動車を購入し、両分署に配置
- 4月1日 国鉄分割民営化 東日本旅客鉄道など開業
- 6月6日 特別養護老人ホーム「松寿園」火災（東松山市）死者17名、負傷者25名

●昭和63年

- 3月 ・JR上越線土樽地内でパノラマ展望列車「アルカディア号」火災発生
- ・自治体消防発足40周年記念式典（東京武道館）
- 4月 ・ミニ消防車購入
- ・第3次消防整備計画の策定
- 7月 ・第17回全国消防協会東北地区支部消防救助技術指導会「ロープブリッジ救出」に新潟県代表として出場（仙台市）
- 10月 ・JR上越新幹線浦佐トンネル総合事故復旧訓練を視察
- 12月 ・湯沢町西中ビルで火災発生（子供2名焼死）



▲ S63.3.30 パノラマ展望車「アルカディア号」列車火災

- 3月13日 青函トンネル開通
- 4月10日 瀬戸大橋開通（世界最長の道路・鉄道併用橋）

●平成元年（昭和64年）

- 1月 ・1月7日昭和天皇崩御、翌日8日に平成と改元
- 4月 ・消防緊急情報システムⅡ型を導入し稼働開始
- ・順次指令装置及び新テレフォンガイドを導入

40年のあゆみ

- 8月 ・ 第40回新潟県消防大会ポンプ操法競技会「消防団・自動車の部」
六日町消防団チーム3位に入賞
- 9月 ・ 管内リゾートマンション特別査察（東京
上野高層マンション火災に伴う査察）
- 11月 ・ 新潟県消防防災課リゾートマンション視察
・ 塩沢町で工場火災
（1棟全焼、4棟部分焼）



▲リゾートマンションの林立した湯沢町岩原地区

4月1日 消費税導入（3%）

11月10日 東西ドイツ「ベルリンの壁」崩壊

●平成2年

- 3月 ・ 塩沢町消防団、消防庁長官より表彰旗受章
- 4月 ・ 指令室に地図検索装置を導入
・ 自動気象観測装置を導入し観測開始
- 6月 ・ 日本消防協会東北地区消防連絡協議会開催（湯沢町）
- 7月 ・ 第19回全国消防協会東北地区支部消防救助技術指導会「ほふく救出、ロープブリッジ渡過」に新潟県代表として出場（山形市）

3月18日 長崎屋尼崎店火災 死者15名、負傷者6名

10月1日 東西ドイツ統一

●平成3年

- 2月 ・ 第46回国民体育大会冬季大会（魚沼国体）が塩沢町、六日町で開催（新潟県総合優勝）
・ 国体関係者の管内宿泊施設を特別査察及び特別警備
- 6月 ・ 広域消防発足20周年記念行事開催（六日町文化会館）
- 7月 ・ 第20回全国消防協会東北地区支部消防救助技術指導会「ロープブリッジ救出」に新潟県代表として出場（仙台市）
・ 関越トンネル2期線開通（現在の上り線）に伴う防災訓練
- 12月 ・ 湯沢分署新庁舎移転竣工

1月17日 湾岸戦争勃発

4月23日 救急救命士法公布

5月26日 雲仙普賢岳噴火 死者・行方不明者44名、負傷者12名、建物全壊795棟

●平成4年

- 1月 ・ 湯沢分署新庁舎にて業務開始
- 6月 ・ 信濃川水系水防訓練（六日町、魚野川）
- 7月 ・ 南魚沼幼少年婦人防火委員会設立

- ・第21回全国消防協会東北地区支部消防救助技術指導会「ほふく救出」に新潟県代表として出場（秋田市）
- 9月 ・六日町婦人防火クラブ結成
- 10月 ・南魚沼郡内幼少年消防クラブ合同結成
・火災予防ポスター、標語入選者表彰
- 12月 ・35m級はしご付消防自動車を購入し、湯沢分署に配置
・本署消防ポンプ自動車（CD-I）更新

7月1日 山形新幹線開業

9月12日 日本人宇宙飛行士初の宇宙へ 毛利 衛

●平成5年

- 4月 ・消防相互応援に関する協定（利根沼田広域市町村圏振興整備組合、南魚沼郡広域事務組合）
・第4次消防整備計画策定
- 5月 ・湯沢町消防団、消防庁長官より表彰旗受章
- 7月 ・防火広報車を導入（日本防火協会より）
- 8月 ・第44回新潟県消防大会ポンプ操法競技会「消防団・小型の部」に塩沢町消防団チーム第1位（第2分団第10部）
- 9月 ・職員に対し救急講習会実施（講師医師、以後毎年実施）
- 11月 ・自治体消防45周年記念大会参加（東京ドーム、各町分団長以上出席）
・湯沢分署救助訓練塔完成
・救急車に患者監視装置（プロパックモニター）を装備し車内での救急処置の高度化を図る。



▲新潟県消防大会ポンプ操法競技会小型ポンプの部で優勝した塩沢町消防団

6月9日 皇太子徳仁親王結婚

7月12日 北海道南西沖地震 死者不明者230名、負傷者323名、建物全壊601棟

●平成6年

- 7月 ・第23回全国消防協会東北地区支部消防救助技術指導会「引揚げ救助、ロープブリッジ救出、ほふく救出」に新潟県代表として出場（福島市）
- 10月 ・塩沢町消防団第2分団第10部、第14回全国消防操法大会出場（横浜市）
- 11月 ・火災予防一日消防署長任命街頭パレード実施（六日町駅通り）
- 12月 ・各町消防団に小型動力ポンプ軽積載車



▲一日消防署長街頭パレード

40年のあゆみ

貸与し、団の機動力化を図る。

- ・大和分署新庁舎移転竣工

4月26日 名古屋空港中華航空機事故 死者264名、負傷者7名

6月22日 製造物責任（PL）法成立

6月27日 松本サリン事件 死者7名、負傷者79名

●平成7年

1月 ・阪神淡路大震災が発生し戦後最大の被害となる（防災基本計画協議）

4月 ・新潟県消防防災ヘリコプター運用開始（防災ヘリコプター応援協定締結）

5月 ・リゾートマンション連絡対策会議

7月 ・中部消防応援協定（5市、3町、1村、7組合）

・第24回全国消防協会東北地区支部消防救助技術指導会「ロープブリッジ救出」に新潟県代表として出場（仙台市）

・第46回新潟県消防大会ポンプ操法競技会「消防団・自動車の部」に六日町消防団チーム3位入賞

9月 ・塩沢町婦人防火クラブ結成

・大和分署にヘリコプター給油施設設置

11月 ・消防車庫を本署庁舎裏に新築

1月17日 兵庫県南部地震（阪神淡路大地震）死者不明者6,435名、負傷者43,792名、住家全壊104,906棟

3月20日 地下鉄サリン事件 死者12名、負傷者5,510名

6月30日 緊急消防援助隊の創設

●平成8年

2月 ・新潟県情報通信ネットワーク衛星通信サービス開始（本署庁舎屋上衛星端末局アンテナ設置）

・湯沢分署に消防ポンプ自動車（兼救助工作車）を購入し配置

4月 ・救急救命士誕生

・南魚沼郡山岳遭難防止対策協議会へ加入

5月 ・放射能防護服、放射能測定器配備

6月 ・本署指令車の更新

7月 ・第25回全国消防協会東北地区支部消防救助技術指導会「ほふく救出、ロープ登はん」に新潟県代表として出場（青森市）

12月 ・蒲原沢土石流災害の捜索に応援出場（第1次隊、第5次隊。長野県小谷村）

・25m級はしご車を購入し本署に配置



▲長野県蒲原沢土石流災害現場へ応援出場

- 2月10日 豊浜トンネル崩落事故（北海道古平町）死者20名
- 6月 病原性大腸菌O-157による集団食中毒各地で発生
- 10月1日 消防職員委員会制度発足
- 12月6日 長野県蒲原沢土石流災害 死者14名、負傷者8名

●平成9年

- 4月 ・第5次消防整備計画策定
 - 5月 ・六日町山岳遭難救助訓練（五十沢十字峡）
 - 6月 ・本署の積載車を更新
 - 7月 ・第26回全国消防協会東北地区支部消防救助技術指導会「ほふく救出、ロープ応用登はん、ロープブリッジ救出」に新潟県代表として出場（仙台市）
 - ・湯沢町山岳救助訓練（湯沢大峰山中）
 - 8月 ・大和分署の救急車及び指令車を更新
 - ・湯沢分署の指令車更新
 - 9月 ・湯沢分署に救急車を増車して2台体制とする
- 3月22日 ほくほく線開業
- 10月1日 長野新幹線開業
- 12月1日 温暖化防止京都会議開催

●平成10年

- 3月 ・自治体消防50周年記念式典（日本武道館）
 - ・本署に高規格救急車購入配置
- 4月 ・六日町病院に『心電図伝送受信装置』設置
- 5月 ・六日町山岳遭難救助訓練（裏巻機溪谷）
- 6月 ・第1回応急手当指導員講習
 - ・文部省主催山岳遭難救助研修会（富山県立山町）
 - ・第1回普通救命講習
 - ・巻機山山岳救助訓練
- 9月 ・救急の日に応急手当普及啓発（六日町ショッピングセンター）
- 10月 ・台風10号郡内に多大な建物被害をもたらす（最大瞬間風速：城内で41.6m）
- 11月 ・集団事故救急救護訓練



▲台風10号により被害を受けた災害現場

- 2月7日 冬季オリンピック長野大会開催
- 7月25日 和歌山県でカレーライス毒物混入事件

40年のあゆみ

●平成11年

- 1月20日・本署、小型ポンプ付水槽車を新規配置
- 6月　・応急手当指導員講習
- 7月　・普通救命講習（一般住民、消防団及び事業所等を対象に実施）
- 8月　・上級防火管理者講習
- 12月14日・本署、救急車更新

- 4月1日　　新潟県消防防災航空隊へ職員1名派遣（2年間）
- 8月12日　　通信傍受法成立
- 9月30日　　(株)ジェー・シー・オー東海事業所ウラン加工施設臨界事故

●平成12年

- 1月　・塩沢町で工場火災
- 2月　・湯沢分署に高規格救急車を導入配備
- 3月13日・本署、化学車更新
- 4月1日・午前零時、関越トンネル内救急業務を道路公団より引き継ぐ
- ・巻機山救助で、消防、警察雪中ビバーク（全員救助）
- ・六日町で町営住宅火災（1名死亡）
- 5月　・わらびのトンネル内で殺人事件発生（灯油をかけ火をつけた）
- 5月31日・湯沢分署、積載車更新
- 7月　・第29回全国消防協会東北地区支部消防救助技術指導会「ロープ登はん」に新潟県代表として出場（新潟市）
- ・航空隊合同山岳救助訓練（平標山）
- 8月　・第51回県消防大会ポンプ操法競技会「消防団・小型の部」で湯沢町消防団チーム5位入賞
- ・大規模災害消防応援総合訓練に救助隊出場（長岡市）
- 9月　・多数傷病者事故救出救護訓練（土樽PA、航空隊出場）
- ・城山トンネル覚書締結（小出郷消防本部）

- 3月31日　　有珠山噴火
- 9月3日　　三宅島噴火全島避難
- 10月6日　　鳥取西部地震　負傷者138名、住家被害9,282棟



▲多数傷病者救護訓練

●平成13年

- 1月1日　・本署、非常用自家発電設備を設置
- 1月4日　・中越地区地震
- 2月12日　・スキー場で雪崩災害（大和町大字五箇　軽傷者1名）
- 3月19日　・南魚沼郡広域事務組合を解散し、南魚沼郡広域連合を設立

- 4月1日 ・ 指令室指令台「消防緊急通信施設（Ⅱ型）」に更新及び新発信地表示システムを導入
- 8月 ・ 六日町欠ノ上地内に消防防災ヘリコプター緊急離着陸場を設置
- 12月25日 ・ 塩沢町消防無線サイレン新設
- 1月6日 中央省庁の再編（自治省消防庁が総務省消防庁に改組）
- 7月21日 明石市歩道橋将棋倒事故 死者11名 負傷者90名以上
- 9月1日 新宿歌舞伎町ビル火災 死者44名
- 9月11日 アメリカ同時多発テロ発生



▲ 8月22日台風11号により増水、松川橋脚沈下



▲ 裏巻機溪谷山岳救助

●平成14年

- 3月9日 ・ 本署、救助工作車更新
- 4月1日 ・ 南魚沼メディカルコントロール協議会設立
- 11月26日 ・ 大和町婦人防火クラブ結成
- 10月15日 北朝鮮日本人拉致被害者
5名帰国



▲ 本署、救助工作車更新

●平成15年

- 4月1日 ・ 第6次消防整備計画策定
- 8月24日 ・ 第54回新潟県消防大会を湯沢町で開催
- 10月30日 ・ 本署、指令車更新
- 12月16日 ・ 湯沢分署、はしご車オーバーホール
- 3月 SARS集団発生（重症急性呼吸器症候群）
- 7月26日 宮城県北部で地震発生 震度6強（負傷者677名）
- 9月26日 十勝沖地震苫小牧市原油タンク火災発生

40年のあゆみ



▲ 8月24日新潟県消防大会（湯沢町） ▲

● 平成16年

- 2月25日 ・大和分署、水槽付消防ポンプ自動車更新
- 4月27日 ・全国消防長会東北支部総会（湯沢町）
- 7月13日 ・新潟・福島豪雨（7.13水害）13～15日災害応援
- 10月23日 ・25日～31日新潟県中越地震災害応援
- 11月1日 ・六日町、大和町合併し南魚沼市となる。
- 11月1日 ・南魚沼郡広域連合を南魚沼地域広域連合に名称変更する。

7月1日 自動体外式除細動器（AED）使用開始

7月13日～14日 新潟・福島豪雨（県内見附市、中之島被害甚大）

10月23日 17:56中越大震災発生 死者46名 負傷者4,794名

10月26日 スマトラ島沖地震・インド洋津波 12ヶ国で15万人以上死亡



▲ 7月19日 見附水害復旧応援



▲ 新潟県中越地震画像



▲ 新潟県中越地震画像



▲ 新潟県中越地震画像

●平成17年

- 2月25日 ・湯沢分署、水槽付
消防ポンプ自動車更新
- 4月1日 ・緊急消防援助隊登録（消火隊・救
助隊・救急隊各1隊）
- 9月1日 ・湯沢分署、救急車更新
- 9月27日 ・本署、高規格救急車更新
- 10月1日 ・南魚沼市と塩沢町が合併する。
- 10月25日 ・携帯119受信装置整備運用開始
- 11月30日 ・湯沢分署、自家発電設備を設置



▲南魚沼市誕生式典

- 3月20日 福島県西方沖地震発生 震度6弱
- 4月25日 J R 福知山線脱線事故 死者107名 負傷者549名
- 8月16日 宮城県沖地震 震度6弱
- 12月25日 J R 羽越本線脱線事故 死者5名 負傷者32名



▲六日町ふれあい祭



▲南魚沼市防災訓練

●平成18年

- 1月6日 ・平成18年豪雪 市町に豪雪災害救助法適用
- 2月28日 ・本署、指揮隊車を配置
- 3月17日 ・大和分署、自家発電設備を設置
- 3月31日 ・南魚沼地域広域連合を解散する。
- 4月1日 ・南魚沼市消防本部となる。湯沢分署を湯沢消防署に格上げ。
- 4月1日 ・南魚沼市六日町消防団、南魚沼市大和消防団、南魚沼市塩沢消防団と改名する。
- 9月15日 ・本署、指令2号車更新
- 10月30日 ・本署はしご車オーバーホール
- 11月28日 ・大和分署、高規格救急車へ更新

- 5月27日 ジャワ中部地震 死者約4,000人

40年のあゆみ



▲ 湯沢消防署 水槽付消防車更新



▲ 18年豪雪

● 平成19年

- 4月1日 ・ 六日町消防団、大和消防団、塩沢消防団を合併し南魚沼市消防団1団体制となる。
- 7月16日 ・ 新潟県中越沖地震 16日～26日災害応援
- 8月31日 ・ 大和分署指令1号車更新
- 9月6～7日 ・ 北越急行との合同訓練 参加人員75名
- 10月2日 ・ 県立六日町病院多数傷病者合同救助訓練 参加人員200名
- 10月14日 ・ 南魚沼市消防団秋季連合演習 六日町小学校 参加人員1,192名
- 11月28日 ・ 湯沢署、高規格救急車更新

3月25日 能登半島沖地震 震度6強 死者1名 負傷者356名

7月16日 中越沖地震 震度6強 死者15名 負傷者2,345名 柏崎刈羽原発緊急停止



▲ 山岳救助訓練



▲ 水難救助訓練



▲ 中越沖地震（柏崎市被害写真）



▲ 中越沖地震（応援隊集結）

●平成20年

- 3月7日 ・自治体消防60周年記念式典（日本武道館）において、南魚沼市消防団（塩沢方面隊）日本消防協会長特別表彰「まとい」受章
- 7月27日 ・集中豪雨（ゲリラ豪雨）発生により、城内地区、東地区内河川において河川土砂災害発生
- 8月29日 ・第37回全国消防救助技術大会（北九州市）初出場（引揚チーム5名）
- 10月16日 ・関越自動車道大和スマートインターチェンジ供用開始
- 10月23日 ・県立六日町病院多数傷病者合同救助訓練（参加者240名）
- 11月28日 ・社団法人日本損害保険協会から高規格救急自動車寄贈により本署、救急2号車を高規格救急車へ更新
- 12月22日 ・湯沢署、指揮隊車を配置

6月8日 秋葉原無差別殺傷事件 死者7名

6月14日 岩手宮城内陸地震 震度6強（東北救助指導会中止）



▲7月27日 水無川頭首工に迫る濁流



▲37回全国救助大会（北九州市）



▲高速道事故救助活動（片田）



▲救助活動（大木六）

40年のあゆみ

●平成21年

天地人大河ドラマ放送（上杉景勝・直江兼続 主従）

- 1月25日 ・文化財防火訓練（鈴木牧之記念館）
- 2月17～20日 ・第64回トキめき新潟国体のスキー競技が南魚沼市（石打地区）及び湯沢町で開催
- 4月9～10日 ・新潟県消防長会春季総会（開催地：南魚沼市）
- 5月16日 ・新型インフルエンザ（A/H1N1）患者が国内で発生、管内では6月23日に発生流行拡大
- 7月23～27日 ・フジロックフェスティバル（苗場）期間中救急隊1隊を現地（湯沢町浅貝）に常駐
- 8月20日 ・第38回全国消防救助技術大会（横浜市）に出場
（ロープブリッジ救出チーム4名、ロープブリッジ渡過）し、2種目とも入賞
- 9月25～27日 ・患者等搬送事業乗務員基礎講習
- 9月27日 ・第64回トキめき新潟国体の自転車競技が南魚沼市で開催
- 9月28日 ・患者等搬送事業乗務員定期講習
- 10月2～5日 ・第64回トキめき新潟国体のテニス競技が南魚沼市で開催
- 10月16日 ・中部消防応援協定協議会を南魚沼市で開催
- 10月23日 ・中越大震災5周年記念追悼式（長岡市）
- 11月20日 ・南魚沼市消防審議会開催

少雪のため春林野火災多発

9月30日 南太平洋サモア近海バヌアツ諸島・インドネシアスマトラ島で相継ぐ巨大地震発生（M7.6～8.3）



▲ 六日町病院との合同訓練



▲ 国体自転車競技

消防救助大会出場記録

(新潟県大会)

S59.7.10 第1回新潟県消防救助技術大会に、ほふく救出種目で初出場する。

H19.7.4 第24回新潟県消防救助技術大会に、技術訓練種目で出場する。

(東北大会)

S62.7.23 第16回(仙台市) ロープブリッジ救出

S63.7.19 第17回(仙台市) ロープブリッジ救出

H2.7.19 第19回(山形市) ロープブリッジ渡過・ほふく救出

H3.7.24 第20回(仙台市) ロープブリッジ救出

H4.7.16 第21回(秋田市) ほふく救出

H6.7.7 第23回(福島市) ロープブリッジ救出・ほふく救出・引揚救助

H7.7.20 第24回(仙台市) ロープブリッジ救出

H8.7.25 第25回(青森市) ロープ登はん・ほふく救出

H9.7.17 第26回(仙台市) ロープブリッジ救出・ロープ応用登はん・ロープ登はん

H10.7.23 第27回(盛岡市) ほふく救出

H12.7.13 第29回(新潟市) ロープ登はん

H13.7.12 第30回(仙台市) 引揚救助

H14.7.18 第31回(山形市) 引揚救助

H15.8.5 第32回(仙台市) 引揚救助

H18.7.20 第35回(福島市) ロープブリッジ救出

H19.7.26 第36回(仙台市) 大会中止

H20.7.24 第37回(青森市) ロープブリッジ救出・引揚救助

H21.7.23 第38回(仙台市) ロープブリッジ救出・引揚救助

(全国大会)

H20.8.29 第37回(北九州市) 引揚救助種目で初出場する。

H21.8.20 第38回(横浜市) ロープブリッジ救出・ロープ渡過



▲ 第37回全国大会(北九州市)



▲ 第38回全国大会(横浜市)

管内の火災・救急・救助出動の推移

| 年 | | S45 | S46 | S47 | S48 | S49 | S50 | S51 | S52 | S53 | S54 | |
|--------|--------|-----|-----|-----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|---|
| 火災発生件数 | 合計件数 | 39 | 25 | 30 | 25 | 41 | 34 | 26 | 31 | 22 | 23 | |
| | 内 訳 | 湯沢町 | 4 | 0 | 4 | 5 | 6 | 5 | 5 | 7 | 4 | 7 |
| | | 塩 沢 | 10 | 13 | 6 | 7 | 17 | 12 | 12 | 9 | 10 | 8 |
| | | 六日町 | 11 | 7 | 11 | 10 | 14 | 11 | 7 | 10 | 4 | 4 |
| | | 大 和 | 14 | 5 | 9 | 3 | 4 | 6 | 2 | 5 | 4 | 4 |
| 救急出動件数 | | 303 | 778 | 790 | 1,168 | 1,223 | 1,239 | 1,255 | 1,254 | 1,334 | 1,263 | |

| 年 | | S55 | S56 | S57 | S58 | S59 | S60 | S61 | S62 | S63 | H1 | |
|--------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|----|
| 火災発生件数 | 合計件数 | 20 | 18 | 26 | 28 | 41 | 62 | 34 | 46 | 35 | 33 | |
| | 内 訳 | 湯沢町 | 4 | 0 | 8 | 9 | 6 | 8 | 7 | 4 | 8 | 9 |
| | | 塩 沢 | 5 | 8 | 5 | 7 | 12 | 16 | 11 | 17 | 12 | 9 |
| | | 六日町 | 3 | 5 | 9 | 7 | 14 | 20 | 10 | 17 | 10 | 11 |
| | | 大 和 | 8 | 5 | 4 | 5 | 9 | 18 | 6 | 8 | 5 | 4 |
| 救急出動件数 | | 1,490 | 1,550 | 1,431 | 1,563 | 1,565 | 1,591 | 1,662 | 1,664 | 1,710 | 1,762 | |
| 救助出動件数 | | | | | | | 20 | 25 | 26 | 30 | 42 | |

| 年 | | H2 | H3 | H4 | H5 | H6 | H7 | H8 | H9 | H10 | H11 | |
|--------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|----|
| 火災発生件数 | 合計件数 | 33 | 30 | 31 | 31 | 20 | 29 | 27 | 34 | 40 | 30 | |
| | 内 訳 | 湯沢町 | 8 | 7 | 4 | 5 | 4 | 6 | 4 | 10 | 7 | 6 |
| | | 塩 沢 | 6 | 6 | 10 | 7 | 5 | 10 | 8 | 9 | 9 | 9 |
| | | 六日町 | 11 | 7 | 11 | 13 | 7 | 7 | 12 | 7 | 15 | 10 |
| | | 大 和 | 8 | 10 | 6 | 6 | 4 | 6 | 3 | 8 | 9 | 5 |
| 救急出動件数 | | 2,057 | 1,979 | 2,040 | 2,190 | 2,178 | 2,228 | 2,302 | 2,305 | 2,386 | 2,647 | |
| 救助出動件数 | | 50 | 23 | 40 | 42 | 50 | 44 | 57 | 50 | 55 | 67 | |

| 年 | | H12 | H13 | H14 | H15 | H16 | H17 | H18 | H19 | H20 | H21 | |
|--------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|----|
| 火災発生件数 | 合計件数 | 44 | 44 | 44 | 43 | 32 | 23 | 33 | 29 | 28 | 47 | |
| | 内 訳 | 湯沢町 | 5 | 5 | 11 | 9 | 7 | 7 | 3 | 7 | 6 | 14 |
| | | 塩 沢 | 19 | 9 | 10 | 14 | 7 | 7 | 8 | 9 | 8 | 10 |
| | | 六日町 | 12 | 20 | 13 | 12 | 10 | 6 | 15 | 9 | 8 | 16 |
| | | 大 和 | 8 | 10 | 10 | 8 | 8 | 3 | 7 | 4 | 6 | 7 |
| 救急出動件数 | | 2,756 | 2,779 | 2,913 | 2,847 | 2,944 | 3,042 | 3,061 | 2,852 | 2,817 | 2,799 | |
| 救助出動件数 | | 63 | 55 | 46 | 57 | 65 | 60 | 74 | 38 | 43 | 60 | |

消防 40 年の歩み

発行 平成 22 年 9 月
編集 南 魚 沼 市
南魚沼市消防本部
TEL 025-782-9119 (代)
印刷 カクチョウ印刷(株)